

中国語初級段階における発話時の 「停顿」について

—介詞・関連詞語編—

鈴木 義昭

キーワード

停顿・強調・介詞・関連詞語

はじめに

本稿では、中国語初級段階の学生が学ぶ介詞、関連詞語（副詞の呼応）等に関する文型を取り上げ、その停顿の位置及び強調される部分について日本語と併せて考察する。また、本稿は、「講座 日本語教育」Vol.35（早稲田大学日本語研究センター 1999.11）に発表した「初級段階の中国語における発話時の「停顿」について」及び「早稲田大学日本語教育研究」創刊号（早稲田大学大学院日本語教育研究科 2002年3月）に発表した「中国語初級段階における発話時の「停顿」について」の最終編である。

1. 介詞

「介詞の用いられた文では、介詞とその賓語まで、すなわち、主語と介詞、介詞の賓語と他の成分の間で切る」

「介詞」とは、英語の前置詞に似た存在で、後ろに名詞、代名詞を置いて、「介詞構造」の文を作る。介詞は、すでに前号で取り上げた「使動文」、「被動文」に用いられる「使」、「叫」、「派」、「令」や「被」、「让」、「叫」、「把字文」に用いられる「把」もいずれも介詞である¹⁾。本稿では、以下に詳述するような、「在」、「同」、「跟」、「和」、「与」、「从」、「比」、「离」、「往」、「对」、「向」、「给」、「朝」、「用」、「拿」、「将」などを取り上げることにする。日本語では、助詞（或いは助動詞）に当たる存在であるが、介詞は補語＝中心語に対して前に置かれ、助詞は後に置かれるという違いがある。また、介詞構造全体で、後置の動詞（動詞句も含む）を修飾する。日本語においても、連用修飾している点で、同様の働きをしていると見てよいであろう。ここに挙げた介詞を見てすぐ分かるように、大部分が動詞を起源としている。そのため、中国語では、「使動文」、「被動文」、「把字文」を「連動文」の一種であるとする説もある²⁾。動詞の影を引きずる形で、介詞の後ろの部分を「賓語」と呼ぶわけである。こうした介詞構造の句が連用修飾として使われる場合、介詞の後ろに来る賓語である名詞、代名詞にアクセントが来る。以下に挙げた例文では、介

詞をゴチックで示し、「重念」(強く読まれる)が行われる語をゴチックのイタリックで示しておいた。

在 地点や時間を表す。

1. 我▽**在超市**∥买东西。
私は▽スーパー(マーケット)で∥買い物します。
2. 老师▽**在教研室**∥等你呢。
先生は▽研究室で∥(あなたを)待っていますよ。
3. 日本▽**在经济上**∥支援∥发展中国家。
日本は▽経済面で∥発展途上国を∥支援します。
4. 他▽**在这场比赛中**∥得胜了。
彼は▽この試合で∥勝ちました。
5. 他▽**在看报的时候**∥戴眼睛。
彼は▽新聞を見る時、メガネをかけます。
6. 我▽**在睡觉前**∥看科学幻想小说。
私は▽寝る前に∥SF小説を読みます。
7. 我们▽**在李老师那儿**∥听录音了。
私たちは▽李先生のところで∥録音を聞きました。
8. 咱们▽回学校∥以后、**在我那儿**∥吃饭吧!
(私たちは)学校に帰ったら、私のところでご飯を食べましょう。

1～4はいずれも「在」の後に、「超市」、「教研室」といった地点=場所を表す語が用いられている。「比赛」「経済」も場面・局面という意味で、地点に比されている。5、6の「时候」、「前」は時間を表している。7、8は、「在」の中が人間の場合、「那儿」、「这儿」という場所語に等しい語を付加している。中国語では、人間に場所性がないと考えるのであろう¹³。日本語で「～の・ところ」を用いるのと同じである。

同 同じ動作をする対象、比較・対照を表す。

9. 老潘▽**同高桥**∥一起去∥銀座了。
潘さんは▽高橋君と∥一緒に∥銀座に行きました。
10. 我▽**同班里的人**∥努力做∥打扫搞卫生。
私は▽クラスの人たちと∥一生懸命∥掃除をしました。
11. 我▽**同杉田小姐**∥体重一样重。
私は▽杉田さんと∥体重が同じです。

跟 動作を一緒に行う対象や比較・対照を表す。

12. 她▽**跟鈴木**∥一起预习课文。
彼女は▽鈴木さんと一緒に∥教科書を予習します。
13. 我▽**跟千叶先生**∥一起学习俄文。
私は▽千葉さんと一緒に∥ロシア語を勉強します。

14. 我▽跟佐藤先生∥想法不一样。
私は▽佐藤さんと∥考えが違います。

和 動作の対象や比較・対照を表す。

15. 再过∥两三天,我们就▽和她∥见面。
もう二三日すれば、我々は▽彼女と∥会えます。
16. 这个▽和那个∥不一样。
これは▽あれとは∥同じではありません。

与 動作の対象や比較・対照を表す。

17. 目前的情况▽与去年∥不同。
現下の状況は▽去年とは∥異なっている。
18. 我们的意见▽与此∥相反。
我々の意見は▽これと∥違っています。

比 性情や程度の比較を表す。

19. 哥哥▽比我∥聪明。
兄は▽私より∥頭がいいです。
20. 我孩子▽比过去∥还结实了。
私の子どもは▽昔より∥ずっと丈夫になった。

このグループに属する介詞は、ほぼ同じ働きをしているが、それぞれニュアンスが異なっている。「話し言葉では、ふつう“跟”を用い、書き言葉では現在は“同”を用いる傾向にある。接続詞として用いるときは、一般的には“和”を用いる傾向にあり、“跟”は比較的少ない。“同”はさらに少ない」(『現代漢語八百詞』の現代語訳は、牛島・菱沼『現代中国語用法辞典』による)。また、「与」についても、「“与”は書き言葉(特に書名・表題)に多く用いる」とある(上に同じ)。さらに、これらには、品詞の問題もある。例えば、

- 9' 老潘同高桥▽一起∥去銀座。
潘さんと高橋君は▽一緒に∥銀座に行きます。

- 11' 铃木跟千叶先生▽一起∥学习俄语。
鈴木君と千葉さんは▽いっしょに∥ロシア語を勉強します。

ようになり、9と11の場合は、「老潘」と「鈴木」が主語であるが、9'と11'の場合、「老潘」と「高橋」、「鈴木」と「千葉」とが主語になるため、停顿の位置が異なってくる。要するに、介詞と連詞とを区別するのは、停顿ということになる。また、このグループ、特に「比」は、肯定の場合、「一起」、「一样」、否定の場合、「不一样」といった副詞、形容詞と共起し、比較・対照を表すわけである。

从(从～到～) 地点、時間の起点や終点を表す。「到」と組み合わせて起点と終点の両方を表すこともある。

21. 我▽从福岡∥飞到大连。
私は▽福岡から∥大連まで飛びました。
22. 松本▽从书包里∥拿出一本字典。
松本さんは▽カバンの中から∥字典を取り出しました。
23. 小郭▽从图书馆∥借了两本书。
郭さんは▽図書館で∥本を二冊借りました。
24. 山西▽从去年年底开始∥一直很忙。
山西さんは▽去年の暮れから∥ずっと多忙です。
25. 日本的大学▽从二月初∥到三月底∥放春假。
日本の大学は▽二月初めから∥三月終わりまで∥春休みに入ります。
26. 从公司∥到成田机场∥有五十公里。
会社から∥成田空港まで∥五十キロあります。

「从」は、動作の起点や経過を表す。動作の起点には、空間的なものと時間的なものがある。動作の終点を表す「到」とともに熟語的に用いられることが多く、英語の“from ~ to ~”に似た形式と言えよう。「起/开始」を賓語の後に置くと、起点がより明らかになる。「离」は、空間・時間の隔たりの起点を表す。「从」との違いは、隔たりの意識と出発点の意識の有無であろう。

离 空間的、時間的な隔たりの基準点を表す。

27. 我家▽离北京新站∥有五公里。
我が家は▽北京新駅から∥5キロのところにあります。
28. 现在▽离毕业∥还有一年。
今▽卒業まで∥あと一年あります。

「从」の項、参照。

对 動作・作用・状態の関連する対象を表す。

29. 她▽对日本文化∥有感兴趣。
彼女は▽日本の文化に∥興味を持っています。
30. 我们会▽对这件事∥作出安排的。
私たちは▽このことについて∥手はずを整えることができます。

「对」は、動作・作用・状態が関連する対象を表す。「跟」との違いは、「对」が一方向(⇒)であるのに対して、「跟」は相互方向(⇔)を表すことができる。すなわち、「对」は「連詞」となることができず、主語を形成することができない。9と11が、9'と11'のような形が取れないということである。

往 動詞が表す動作の向かう方向を表す。

31. 学生们▽往教室∥走去。
学生たちは▽教室に∥歩いて行った。

32. 老大娘▽往銀行那边 || 走去了。
お婆さんは▽銀行のところまで || 歩いて行った。

向 名詞と組み合わさって、動作の方向を表す。

33. 我▽向杉本先生 || 借了几本书。
私は▽杉本さんに || 本を何冊か借りました。
34. 律师▽向证人 || 提问。
弁護士は▽証人に || 質問をしました。

朝 動作の向かう方向を表す。

35. 小姑娘▽朝老头儿 || 做鬼脸儿。
おじょうちゃんは▽おじいさんに || アカンペーをしました。
36. 早大正门▽朝东 || 开。
早大の正門は▽東に向いて || 開いています (東向きです)。

给 動作の向かう方向を表す。

37. 家里▽给小李 || 寄来了一个包裹。
家から▽李さんに || 小包みが送られてきた。
38. 我▽给你 || 当翻译, 好不好?
私が▽あなたのために || 通訳になりましょうか。
39. 小心▽别把玻璃 || 给人家 | 碰碎了。
人の家のガラスを | 割らないように || 気を付けてください。
40. 出去的时候儿▽给我 | 把门 || 关好。
出掛ける時には▽ドアを || ちゃんと閉めてください。
41. 谢冰心▽有时间 || 给小朋友 | 讲故事。
謝氷心は▽時間があると || 子どもたちに話をしました。
42. 衣服▽给雨 || 淋湿了。
服が▽雨に || 濡れてしまいました。

「给」は、語義が多岐に亘る語であり、本来の動詞は無論のこと、介詞として上にも挙げたように、ある動作を受ける人・物、或いは、動作そのものを表す。

用 手段・方法を表す。

43. 小何▽用日语 || 写信。
何さんは▽日本語で || 手紙を書きます。
44. 我▽不太喜欢 || 用笔 | 写字。
私は▽毛筆で || 字を書くのが | 好きではありません。

拿 手段・方法を表すとともに、「把」と同様、目的語を動詞の前に置く働きをする (「処置式」)。

45. 他▽拿事实 || 证明自己的无罪了。

彼は▽事実により || 自分の無罪を証明しました。

46. 你▽别拿我 || 当小孩。

あなたは▽僕のことを || 子ども扱いしないでください。

将 「把」、「拿」と同じく、目的語を動詞の前に置く働きをする。故事成語などのやや古文的な表現に用いられる。

47. 他▽将课本与讲义 || 借给了我。

彼は▽テキストとプリントを || 貸してくれました。

48. 韩愈诗里曰、岂将▽衰朽 || 惜残年。

韓愈の詩に、どうして老い衰えたからとて、残余の年を惜しもうか、と言う。

为 動作の受益者を表す。

49. 为 我们两个人的将来▽而干杯！

我々二人の将来のために、乾杯！

50. 为了 || 培育下一代、我愿意▽终身从事 || 教育工作。

次の世代を || 育てるために、私は▽生涯教育事業に従事したい。

替 動作の受益者を表す。

51. 大家▽都替你 || 很高兴。

みんなは▽彼のために || 大変喜んだ。

52. 全班同学▽都替她 || 送行了。

クラスみんなは▽彼女を || 送って行った。

2. 関連詞語

「関連詞語の用いられた文では、単文及び等価複文の場合は、それぞれの句中の、関連詞語とその中心語の部分まで、すなわち、次の関連詞語の前で切る。また、偏正複文の場合は、偏句（従属節）と主句（主節）の中にある関連詞語とその後の部分との間で切る」

関連詞語とは、複文の中で、接続作用を行う副詞、介詞及びその短語を総称して言う。複文は、並列・逡進・承接・選択・解説・譲転・因果・条件等に分けられる。以下の分類では、①～⑤までが「聯合複句」（等値複文）であり、⑥～⑧までが「偏正複句」（主従複文）である¹⁵⁾。

①並列複文：「又～又～」、「一边～一边」、「也～也～」、「既～又～」

②逡進複文：「不但～而且～」、「不仅～而且～」、「尚且～何况～」、「越～越～」

③選択複文：「或者～或者～」、「是～还是～」、「要么～要么～」、「与其～不如～」

④承接複文：「于是～」、「一～就～」、「每逢～」

⑤解説複文：「就是」、「总之～」

- ⑥譲転複文：「虽然～但是～」、「尽管～但～」、「即使～然而～」
- ⑦因果複文：「因为～所以～」、「由于～因此～」 「既然～因而～」 「 」
- ⑧条件複文：「如果～就～」、「只有～才～」、「不管～也～」、「只要～才～」

本稿では、ゴチックの関連詞語を扱うことにする。

又～又～ 動作や状態が同時に行われることを表す。

- 53. 这种菜▽又便宜∥又好吃。
こうした料理は▽安くて∥おいしい。
- 54. 他▽又是画家∥又是诗人。
彼は▽画家でもあり∥詩人でもある。

既～又～ 動作や状態が同時に行われることを表す。「又～又～」とほぼ同じであるが、やや文言的である。

- 55. 她▽既漂亮∥又聪明。
彼女は▽美しくて∥聡明です。
- 56. 我丈夫▽既喝酒∥又抽烟。
私の夫は▽酒も飲み∥タバコも吸います。

不但～而且～ 前件の事柄や動作に、後件でもさらに事柄・動作を付け加える意味を表す。

- 57. 他▽不但会英文、而且∥会德文。
彼は▽英語が話せるだけでなく、ドイツ語も話せます。
- 58. 他▽不但政治家、而且∥一流文人。
彼は▽政治家であるだけでなく、一流の文化人です。

越～越～ 前の動作・状態を受けて、後ろの動作・状態になることを表す。

- 59. 大家▽越谈∥越高兴。
みんなは▽話せば話すほど∥楽しくなりました。
- 60. 汉语▽越学∥越有意思。
中国語は▽勉強すればするほど∥面白くなります。

或者～或者～ 選択を表す。

- 61. 或者赞成、或者反对、你▽应该表示个∥自己的立场。
賛成するか、反対するか、君は自分の立場を明らかにすべきです。
- 62. 或者你来、或者我去、都行。
あなたが来ても、私が行っても、どちらでもいいです。

与其～不如～ ある事柄を比較した後に、別のある事柄を選択したことを表す。

63. 与其▽你去、还不如▽我去。

あなたが行くより、私が行った方がいいです。

64. 与其▽这样等着、不如▽找点工作丨做做。

こうしてただ待っているより、仕事でもした方がいいです。

一～就～ 前件の動作が行われると、後件の動作がスムーズに行われることを表す。

65. 八木▽一喝酒、脸就红。

八木君は▽酒を飲むと、すぐ顔が赤くなります。

66. 我们▽一到电影院、电影▽就开演了。

私たちが▽映画館につくと、映画がすぐ始まりました。

尽管～然而／也～ 譲歩を表す。

67. 尽管∥下着大雨、然而人还是很多。

大雨だというのに、こんなにたくさんの人がいる。

68. 尽管∥他手艺丨再好、也∥比不上机器了。

彼の技術がどんなによくても、機械にはかないっこないです。

因为～所以～ 原因を表す。

69. 因为▽他丨努力学习、所以∥取得了丨好成绩。

一生懸命勉強したので、いい成績が挙げられました。

70. 因为工作太忙、所以∥没能参加这次活动。

仕事が忙しかったので、今回の活動には参加できませんでした。

不管～总是～ 疑問代詞、或いは並列句を含む句や節に用い、いかなる条件の下でも結果・結論に変わりがないことを表す。

71. 不管▽天气热不热、他▽总是∥穿这么多。

熱かろうと寒かろうと、彼は▽いつもこんなに厚着をしている。

72. 他▽不管∥有什么工作、业余时间里∥总是写文章。

彼は▽どんな仕事があろうとも、余暇の時間には∥いつも文章を書いている。

如果～就～ 仮定を表す。

73. 如果▽你有困难、就∥来找我。

もし▽困ったことがあったら、私を尋ねてください。

74. 如果▽你去、我就∥不去了。

もし▽あなたが行くなら、わたしは∥行きません。

即使～也～ 仮定兼譲歩を表す。

75. 即使▽你去、也∥解决不了问题。

たとえ▽あなたが行っても、問題は解決しません。

76. 即使▽他说明、谁也∥不听。
たとえ▽彼が説明しても、誰も∥聞いてはくれません。

既然～就～ 文の前節に用いて、すでに現実となった、あるいはすでに肯定された前提を提示する。

77. 你▽既然知道、我就∥不再多说了。
あなたが知っているからには、私は∥多くは言いません。
78. 既然▽公司派我去大阪、那就是∥相信我。
会社が私を大阪に出張させたからには、私を信頼してのことです。

只有～才～ 唯一の条件を表す。

79. 只有到了秋天、才能看到香山红叶。
秋にならなければ、香山の紅葉は見られません。
80. 只有在紧急情况下、才能动用这笔款项。
緊急の時にのみ、この金を使うことができます。

只要～就～ 必要条件を表す。

81. 只要努力、你就∥能学好汉语。
努力しさえすれば、中国語がちゃんとマスターできます。
82. 只要∥不下雨、就∥按时召开运动会。
雨が降りさえしなければ、時間通り運動会が開かれます。

3. 強調・譲歩・反問

～是（～的） 強調を表す。

83. 这本小说▽是有趣、值得一读。
この小説は▽とても面白く、一読に値します。
84. 我▽是在名古屋∥遇见他的。
私は▽名古屋で∥彼に会ったんです。

「是」を用いた強調文では、一般に「是」の前で切る。「～是～的」文型の切れ目は、強調部分の後ろにある。

虽然～但是～ 譲歩を表す。

85. 我▽虽然很想买、但是∥没有钱。
私は▽とても買いたいのですが、お金がありません。
86. 她▽虽然认识老成、但是∥不太熟。
かの女は▽成さんを知ってはいますが、余りよく知っているわけではありません。

87. 这个东西▽好 | 是好、不过 | 太贵了。
この品はいいことはいいいんですが、ちょっと高いです。

88. 那件衣服▽好看 || 是好看、就是太贵。
あの服は、綺麗なことは綺麗ですが、実に高いです。

「譲歩（確認）」を表す「A₁ 是 A₂」の場合は、A₁ の後ろで切る。

难道～吗？ 反問を表す。

89. 这件事▽难道 || 是偶然发生的吗？
この事は▽まさか || 偶然に起ったというんじゃないでしょうね。

90. 鈴木▽难道 || 不愿意 | 考得好一点儿吗。
鈴木君は▽よもや || もう少しいい成績を取りたくないんですか。

「难道」を用いた反問文では、「难道」とその後ろの言葉の前で切る。

4. 二重否定

91. 桥本▽不是不知道、是 || 故意做的。
橋本さんは▽知らないのではなくて、わざとやったんです。

92. 松川小姐▽不得不 || 亲自出面处理 | 这个问题。
松川さんは▽この問題を片付けるのに || 自ら乗り出さざるを得ませんでした。

93. 不让他去、可是▽竹川 | 非去 || 不可。
彼を行かせないわけではないが、竹川さんが行かなくてはなりません。

94. 要 | 学好汉语、非 | 下一番工夫 || 不可。
もっとよく中国語をマスターするためには、何があっても努力しなければなりません。

「非～不可」では、「非～」と「不可」との間で切る。

5. 感嘆文

95. 这儿的风景▽多美啊！
ここの風景は▽なんて美しいんでしょう！

96. 那个孩子▽多么可爱啊！
あの子は▽なんと可愛いんでしょう！

97. 吉冈先生的房间▽收拾得 || 真干净！
吉岡さんの部屋は▽本当によく || 片付いていますね！

98. 日本公司职员▽忙 | 极了！
日本のサラリーマンは▽本当に忙しいですね！

感嘆文では、感嘆の成分となる語が強調される。

おわりに

本論は、取り上げられることの少ない、中国語の「停顿」を考察することにより、その日中対照研究を試みたものである。論題に中国語初級段階とあることにより、中国語の論文であるとの誤解を受けた嫌い無きにも非ずであるが、本論があくまでも日中対照研究の一環であると考えて筆者の本意とするところではない。

なお、本稿に用いた例文は、主として鄒彦紅さん（当時（1998）、商学研究科在学中）を煩わせて、鈴木とともに作成した他、『漢語八百句』等の例文を利用させていただいた。

注

- 注1. 拙論「中国語初級段階における発話時の「停顿」について」（『早稲田大学日本語教育研究』創刊号 2000、3）pp.35～36 参照。
- 注2. 「連動文」とは、共通の主語を持ち、二個以上の動詞を持つ文のことを言う。介詞（ここでは、「使」「被」「把」）に動詞的要素を強く認めれば、動詞が二つ存在することになり、連動文となる。
- 注3. 例えば、「她死了父亲」という時、この文は「存現文」と考えられる。「她」は人間であり、通常、場所性を持たない。場所性を持たないとすれば、存現文ではなくなることになり、矛盾するわけであるが、位置のエネルギーを得ることによって、人間に場所性が付与されると考えるべきである。
- 注4. 呂叔相主編・牛島徳次監修・姜沼透翻訳『現代中国語用法辞典』（1983 8 現代出版 本論では、1985年版を用いた）
- 注5. 拙論「現代中国語における「关联词语」について」（早稲田大学日本語研究教育センター『紀要』Vol.4）参照。